研究デザイン

亀山市立白川小学校

亀山市教育大綱 基本方針「 未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現 」

亀山市教育関係職員 研修基本方針
「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために」
（1）すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
（2）教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
（3）人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
（4）地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1.学校教育目標

であい ふれあい そして未来へ
～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

白川小学校校舎

○めざす学校像 「一人ひとりの子どもが輝く学校」

○めざす子ども像
（1）思いやりのある子
（2）自分を発揮できる子
（3）自分の思いを追い求める子
（4）対話をとおして人とつながる子
（5）新しい時代に対応していける子

5･6 年体験活動「炭作り」

2.研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成
～主体的・対話的な授業で深まりあう白川っ子の育成を目指して～

3.研究主題設定の理由

（1）児童の実態

本校は、児童数が42人で、そのうち小規模特認校制度を利用している児童は7人である。特認校制度により校区外からの児童が増えることで、交友関係が広がり、学び合いの活性化につながっている。全体として児童の数は昨年度とほぼ同じであるが、3･4年と5･6年は複式学級となっている。

一年間を通じて、地域と密着した体験活動を行っており、米づくりや炭焼きなどの体験や生活介護事業所「つくし

の家」との交流などの社会福祉体験に取り組んでいる。本校は、地域と学校とのつながりが強く、保護者や地域の方とともに子どもを地域で育てていこうとする風土がある。6年前からコミュニティ・スクールとなり、より一層地域とのつながりを強め、「地域とともにある学校づくり」を進めている。

小規模校であることを活かし、縦割りでの班活動を多く設定することで、全校児童が深く関わり合いながら学校生活を過ごしている。あたたかい雰囲気があり、上級生が下級生に優しくサポートできており、下級生はそうした経験をもとに、上級生になった時に下級生に自然と優しくできている。しかし、穏やかな関係を築く反面、お互いに切磋琢磨し、意欲の向上を図ったり、目標を目指したりしていく雰囲気は少ない。

体験活動「全校田植え」

運動会「表現運動」

(2) これまでの成果・課題

統一した授業スタイルの授業による学びと、白川小学校の特色であるさまざまな体験活動での学びを二つの軸にすえ、相互の学びを関連させながら、体験活動の中で培われてきた自主性や発想力、豊かな想像力など児童の内面の力をさらに引き出し、学びの質の向上を目指して研究を行ってきた。

国語の学習

昨年度までの研修の取り組みで、次のような成果を得られた。

・自分の考えや思い、学んだこと等を相手に伝える表現力の向上。
・自分の考えを言語化し、書いたり話したりして表現する力の向上。

しかし、次のような課題も残っている。

・課題に対する自分の考えを持つことが苦手な児童が多い。
・共通の課題に対して、友だちと意見を交わしながら考えを深め、まとめる協働性が乏しい。
・「わたりの授業」の実施に伴い、複式学級における授業づくりのさらなる研究を進める必要がある。

4. 研究主題について

前述した子どもの姿や課題から、今年度は、サブテーマを「主体的・対話的な授業で深まりあう白川っ子の育成を目指して」とした。昨年度の対話的な学びを生むための取り組みに加え、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくりを育てていきたいと考える。そのために、自力解決の時間である「一人学び」と、ともに学び合う時間の「とも学び」の充実に向けた各学年に応じた学び方を明らかにし、教職員全員が共通理解をもって、授業づくりを進めていく。また、単式・複式に関わらず、どの子どもも授業の見通しをもち、課題を自分化し子どもたち同士で学習を進めることができる力を育めるよう、リーダー学習やガイド学習の実践に力を入れ研究を進めていきたい。

また、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、相手に伝えることを意識して全校で取り組むことで、自分に自信をもって、発信することのできる子どもを育てていきたいと考える。

5. 研究領域

全教科・全領域

6. 研究構想図

学校教育目標

であい ふれあい そして未来へ
～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成
～主体的・対話的な授業で深まり合う白川っ子の育成を目指して～

めざす子どもの姿

自ら学ぶ子ども

- 各学年に応じた学び方を身につけ、課題の自分化を図りながら、粘り強く課題解決しようとする子
- 自分のよさに気付き、生き生きと高めようとする子
- 学んだことを今後の学習や生活に生かそうとする子

ともに伸びようとする子

- 自分の考えを伝え調べたことや考えたことを発表する子
- 考え方や意見の違う友だちと議論し再考する中で、考えを深める子
- 互いのよさや違いを認め合い、新たな考えを発見する面白さや楽しさを感じられる子

主体的・対話的な授業づくり

☆一人ひとりが考えを持つために

- 授業の流れやすることの視覚化
- ホワイトボードや ICT 機器の活用
- 既習事項や生活と結びつきの意識づけ
- 音読の充実化　・絵や図表の活用
- 具体物を操作する活動
- 読み取る指導の充実
- 国語辞典の活用　など

一人学び

- 課題をつかむ
- 考えを持つ
- 再考する

とも学び

- 伝えあう
- 比べる
- 広げ深める

☆伝え合い深め合うために

- 話し合いを生むしかけづくり
- ガイド学習やリーダー学習の充実
- 「話す」「聴く」スキルの定着
- 発言の仕方の掲示
- 振り返りによる学びの自覚化

認め合いつながりあう なかまづくり

- 児童の実態把握
- 全教員による「すみがく」
- 人権教育の日常化
- 安心できる学習集団づくり

地域と進める 豊かな体験活動

- 地域とともにある学校づくり
- 意図をもった異学年交流
- 様々な外部機関との連携

学びの基礎・基本

- 学習規律
- 表現力の向上
- 自主学習
- 話す聴くスキル
- 語彙力など

7. 具体的な取り組み

(1)「主体的・対話的学びで深め合う」ための授業づくり

〇研究主題及び目指す子どもの姿の達成に向けて、統一した授業展開に沿って「一人ひとりが考えを持つための手立て」や「話し合い活動の充実」を図る取り組みを校内全体で意識して行っていく。

(2) なかまづくり

〇人権教育の推進及びすみがくタイムの設定

・人権カリキュラムに沿った、系統的な人権教育を行うとともに、全校で人権集会を行う。

・人権、なかまづくりを意識した学習内容を取り入れた授業を行う。

〇なかまづくりレポート

・各学級の心にとめる子を中心に、まわりの子との関わりや関係を捉え、誰もが安心して過ごせる学級づくりに向けた取り組みを交流し合う。（年間3回）
・職員会議や校内支援委員会などで心にとめる子の様子を交流し合い、全教職員で情報を共有する。
・QU アンケート、人権アンケートなどを活用し、児童の実態把握に努める。
〇ソーシャルスキルの習得
・各学級でソーシャルスキルトレーニングを行い、自分の思いの伝え方などを身につけることができるようにする。

（3）豊かな体験活動

〇 地域、保護者、つくしの家、安全の里とのつながりを大切にした体験活動を継続する。また、他の学習と関連付け、つける力を明らかにして取り組む。

1・2 年体験活動「いもさし」

＜主な体験活動＞
1・2年…地区たんけん、さつまいもづくり
3・4年…お年寄り訪問、花壇づくり、安全の里介護体験
5・6年…炭づくり、つくしの家福祉体験
全校…米作り体験、白川ふれあい集会、もちつき集会

（4）複式学級での授業の進め方の研究

〇 ガイド学習及びリーダー学習を取り入れた授業づくりの研究を進める。
〇 図画工作、体育、道徳、家庭科、音楽、総合的な学習の時間のA、B案でのカリキュラムの見直し

（5）基礎・基本の定着

児童集会「白川っ子タイム」

〇 語彙力、表現力、文章構成力を発揮するための機会を設定する。
・「聴く・話すの約束」をもとに、伝えるスキルを習得する。
・国語科や短時間学習で国語辞典や「ことばの宝箱」などを活用し、多様な表現方法を学習する。
・始業式、終業式で全員が各学期の目標やがんばったことなどを話す。
・白川っ子タイム（児童集会）でスピーチタイムを設け、話す機会を増やす。
〇 短時間学習の充実
朝の学習を曜日ごとに設定し、基礎・基本の定着を図る時間として確保する。
〇 自主学習の充実
自主学習ノートを掲示物や通信などで発信・紹介し、内容や意欲の向上を図る。また、「自主学習の手引き」を配布して、各家庭での協力を仰ぐ。
〇 ワンダーコーナー
毎月、廊下に書籍や体験活動ができるコーナーを設け、児童の好奇心や意欲を引き出し、発展的な内容にふれる機会をつくる。

「ワンダーコーナー」

（6）校内研修会の充実

〇 研究授業を一人一回行う。
〇 積極的に研修会に参加し、還流報告により校内研修のさらなる充実を図る。
〇 OJT（オン・ジョブ・トレーニング）を随時行う。